

教育コミュニティづくり通信

令和3年12月2日

令和3年12月2日、松原市立三宅小学校が実施した「縄ない体験」を訪問しました。この活動は、元教員の学校支援コーディネーターが連絡・調整し、ボランティアである土地改良区の方々の協力のもと、5年生58名を対象に実施した取り組みです。

年間を通して農業を体験

三宅小学校の5年生が、田んぼーズと書かれたおそろいのTシャツを着て、6月に田植えを体験しました。その後、5年生は田んぼを観察しに行ったり、10月に田んぼにれんげの花の種をまくなど、年間を通して農業を体験しています。10月には稲刈りもし、刈った稲を干して乾燥させた上で、千歯こきを使ってもみを取るところまで体験しています。今回はその次の段階として、干したワラを使って縄ないを体験しました。

丁寧な指導と優しい声かけ

授業が始まる前から子どもたちはとてもうれしそうで、この体験をととても楽しみにしていたことがわかりました。

最初に、ボランティアの方から縄ないのやり方を説明していただき、その後子どもたちは4グループに分か



れて縄ないを行いました。4グループに対し、9名のボランティアの方と4名の教員が各グループに分かれてつき、丁寧に作り方を説明していました。「自分でできたなあ」「上手にできたね」「ようできとる。みんな上手に作りはるわ」など、子どもたちを褒める言葉をたくさん言っていただき、子どもたちも嬉しそうにしていました。子どもたちは「(できた縄を輪にして) クリスマスリース作るねん」「正月に飾る分も作る」など、家で飾ることを思い浮かべながら、様々に工夫して飾りつけをしていました。



子どもたちの感謝とボランティアの思い

子どもたちからボランティアの方へ、農業体験をさせていただいたことへの御礼の言葉が送られました。田植えや稲刈りなどの思い出やボランティアの方への感謝の言葉にボランティアの方も嬉しそうでした。ボランティアの方々は、地域みんなで学校の応援団として子どもたちを育てていきたいとおっしゃっていました。コーディネーターの丁寧な連絡・調整のもと、学校と地域の信頼関係が築き上げられた取り組みでした。

